

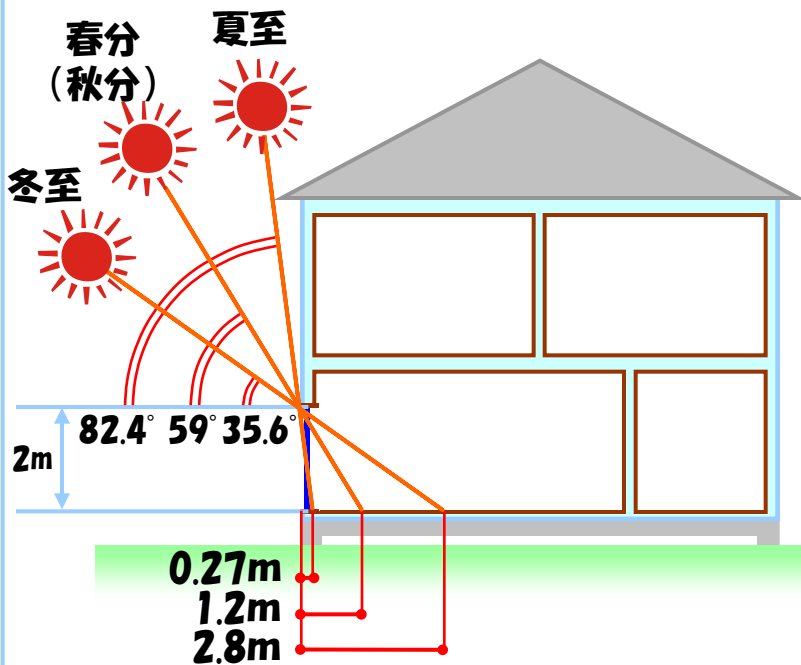
1. 光を利用する



鹿児島島の太陽光②

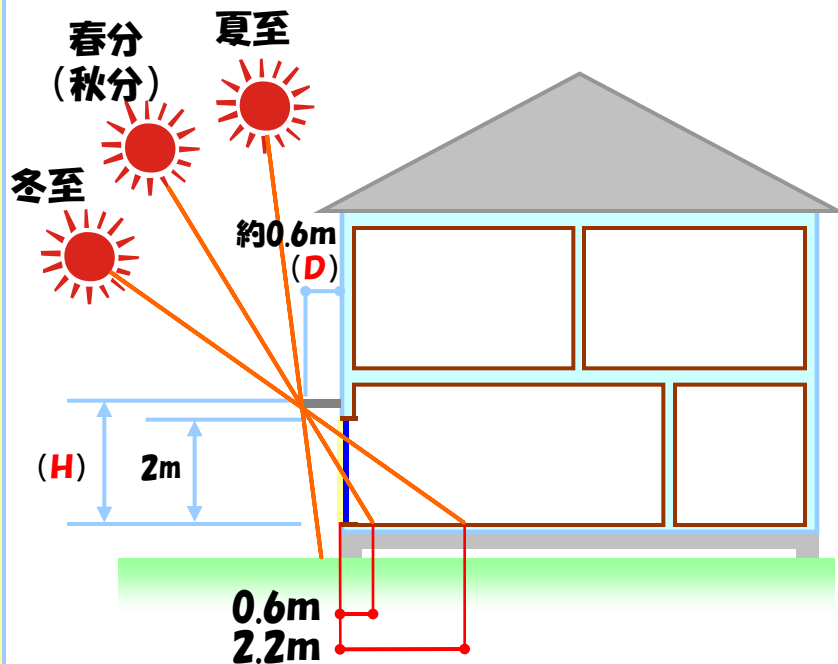
(ひさしの役割)

ひさし無し



ひさしが無いと仮定してみると、太陽が真南に来たときには、冬は外壁から最大2.8mまで陽が差込み、夏は最大0.27mまで陽が差込むことがわかります。

ひさし有り



夏の強い陽射しを防ぐ(遮熱)ためにひさしをつけると、冬は陽の差込みが、ひさしの長さ分だけ小さくなります。
西日本は、ひさしの出巾(D)が $D=0.3H$ であれば、充分です。(次世代省エネ基準の指針より)

注)南中高度の場合